当協会が登壇・講演！

「第 15 回 国際保険流通会議」にて価値提供 ！

2026 年 11 月 7 日に「第 15 回　国際保険流通会議」（日本青年会議所 保険部会/一般財団法人 保険代理店サービス品質管理機構 主催）が開催され、「制度変化に対応する業務品質向上と実践への展開」をテーマに、金融庁役職者や保険業界実力者による講演やパネルディスカッションが行われました。

当協会からは、専務理事 宮武 祥夫がパネリストとして登壇するとともに、理事シニアアドバイザー 平賀 暁（マーシュブローカージャパン会長）が講演講師とトークセッションで参加し、リスクマネジメントの高度化と、保険仲立人として期待される役割、仲立人業界の方向性等について議論を行いました。

詳しくは以下よりご確認ください。

１．　**講演の部で 平賀 暁が「リスクの潮流とリスクマネジメントの高度化～リスクの輻輳～に備える」を演題として講演いたしました。**

近年のリスクは単独で発生するよりむしろ、複数のリスクが連鎖して起こる時代。しいては経営に襲い掛かる「輻輳」状態にある。

グローバルベースでリスクを洗い出す際、AI 活用も有効だが、最も重要なのは顧客との密な対話で真のニーズを気付かせて、把握して、それらニーズに応じたプロとしてのソルーションを提供すること。対話と情報活用をベースにリスクマネジメントの高度化を志向するべき。

２．　**トークセッションの部で 平賀 暁が、のぞみ総合法律事務所マネジング・パートナー弁護士の吉田桂公氏、日本代協専務理事の金澤亨氏、保険代理店サービス品質管理機構専務理事の中川典俊氏、ＪＣ保険部会第33 代歴代部会長の行木隆氏らとともに、「求められる保険代理店の品質を『組織』『リスクマネジメント』『テクノロジー』の３視点から捉える」をテーマに意見交換を行いました。**

セッションではさらに、①顧客の意向把握、②品質・組織、③テクノロジーに沿って議論。

① 顧客の意向把握では法人と個人の場合、それぞれの特徴・注意点につき

意見交換。②品質向上のカギとしては記録の徹底、その残し方を共有。

③テクノロジー面ではAI時代に必要な「概念」「批判的」「創造的」の3つのコンセプトの下、顧客志向の徹底が必要。

3．　各業界団体によるパネルディスカッション・パートで　宮武 祥夫が、日本代協会長の小田島綾子氏、ＮＰＯ法人日本リスクマネジャー＆コンサルタント協会副理事長の松本一成氏、ＪＣ保険部会第38代歴代部会長の市川祐史氏（コーディネーター）と共に登壇し、「各協会・機構の取り組みについて」をテーマに今後の各業界の方向性につき議論いたしました。

損害保険業界では、改正保険業法、健全な競争、および業務品質評価制度の本格運用を踏まえて、各種課題への対応整理が急務。

そういう中、各業界団体では何を重点に、何を強みとして発展的に取り組みつつあるか、などを紹介・議論。

日本保険仲立人協会としては、保険仲立人制度の活性化、保険代理店との協業、企業のリスクマネジメント向上に向けた活動、関連団体との連携強化、情報発信強化などを通して顧客への高付加価値提供に尽力していることを紹介。

以上ですが、当協会といたしましては、今後とも保険仲立人業界の健全かつ益々の発展に向けて活動してまいります。





以上。。